

2014年(平成26年)

4月3日
木曜日

発行所 松山市大手町1丁目
12/1 郵便番号790-8511
愛媛新聞社
電話089(935)2111 受付案内台
HP <http://www.ehime-np.co.jp/>
©愛媛新聞社 2014

総合 老化での免疫低下解明 3面

健康を守るために重要な免疫の働きは、老化によって弱まる傾向がある。そんな免疫機能を維持するヒントを、愛媛大大学院医学系研究科



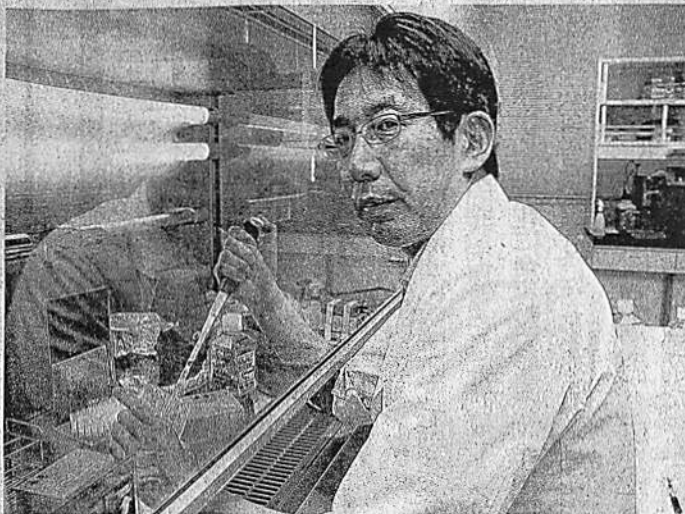
の山下政克教授らのグループが突き止めた。さらに研究が進めば、さまざまな疾患の予防や治療法につながると期待される。

老化の仕組み 発見

2タンパク質が リウマチ治療など期待 免疫機能に作用

体内に入った異物を排除する免疫機能が老化によって低下する仕組みに、2種類のタンパク質が作用していることを愛媛大大学院医学系研究科の山下政克教授(48)が免疫学の研究グループが発見し、2日付英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズ電子版に発表した。研究が進めば、高齢者に多い関節リウマチなどの慢性炎症疾患や、肺炎など感染症の予防・治療法の確立につながる可能性があるとしている。

愛媛大大学院研究グループ



免疫機能が老化によって低下する仕組みを明らかにしたと発表した山下政克教授
11日、東温市志津川の愛媛大医学部

山下教授によると、老化は免疫機能を低下させると同時に、過剰な炎症反応を引き起こし、関節リウマチなどの発症につながる。免疫反応の司令塔」とされる特定の細胞の劣化が、一因とされてきたが、詳しい仕組みは不明だった。

研究グループはこの細胞に着目。マウスを使った実験などによると、老化した細胞内では、通常よりもタンパク質の一種「メニン」の働きが弱まり、別のタンパク質「Bach 2」の量が減るのを発

見。Bach 2は炎症反応を抑える役割があり、メニンの機能低下が炎症疾患の増加を引き起こす可能性がある」と突き止めた。

山下教授は「高齢化社会では細胞の機能をいかに維持し、きっちりと働かせるかが健康につながる」と強調し

着眼点 独創的で面白い

高津聖志富山県薬事研究所長(免疫学)の話 免疫系全体をコントロールする細胞のタンパク質の機能については世界的に興味が高く、競争の激しい研究領域であり、2種類のタンパク質の今まで知られてきたものとは違う作用を明らかにした着眼点が独創的で面白い。将来性のあるテーマで、老化との関係について研究が進めば、重要性が大きくなっていくだろう。

(正岡万弥)

た。

今後は、この細胞の中のメニンが機能低下する要因を詳細に解析する。制御法が解明できれば、免疫系の老化に伴う慢性炎症疾患だけでなく、免疫機能の不具合で起きるアレルギーやぜんそく、がんなどの予防や治療に役立つ可能性があるという。将来的には社会へ効果を還元したい」としている。